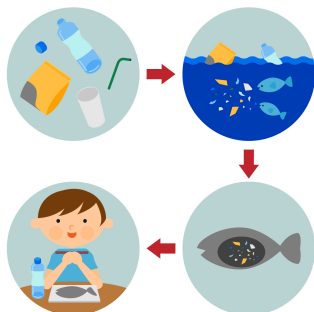


「プラスチック条約策定に関する要望書」の署名 にご協力をお願いします



プラスチックごみによる海岸や島々の汚染、ウミガメや海鳥など海の生物に対する悪影響、また微細化したマイクロプラスチックが魚などを通じて人の健康にも影響を及ぼすことが懸念されています（マイクロプラスチックはPCB、ダイオキシンなどの有害物質を吸着しています）。このままプラスチックの生産量が増え続けると、2050年までには海洋プラスチックごみの総重量が魚の総重量を上回るとの試算が2016年、エレン・マッカーサー財団により発表されました。

プラスチックの生産・使用量は、2019年に年間に4億6000万トン、生産量の3分の2以上が使い捨て製品です。自分の身の回りを見ても、紙や金属で作られていたものの多くがプラスチックになり、生協で配布される衣類のカatalogにも化学繊維（プラスチック）製品が増えているように思います。



このようなプラスチック問題に対して、2022年国連環境総会で「プラスチック汚染を終わらせる法的拘束力のある国際文書に向けて」という決議があり、2024年末までにプラスチック条約を策定することが決まりました。

「法的拘束力のある国際文書」とは条約のことです。条約には法的拘束力があるので、例えば、ある有害化学物質が使用禁止になると、日本でも使用禁止となります。これはふつう国内法整備と言う形でおこなわれるので、現在フタル酸エステルやビスフェノール類などの有害化学物質の規制がない日本での、国内法の整備に役立つと考えられます。

ところが、昨年11月25日から12月2日まで釜山で行われた第5回政府間交渉委員会（INC5・1）では、①生産制限と②懸念化学物質の段階的廃止をめぐる、条約にこれらを盛り込むべきと主張する多くの国々とこれに反対するロシア、サウジ、イランなどの産油国グループの対立が大きく、合意に達することはできませんでした。そして再度INC5・2を開催して交渉を継続することで閉幕しました。

（次ページに続きます）

2025年2月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」in流星台プレイパーク：毎週木曜日10～14時活動中です！（出入り自由） 2/6(木)みそ作りワークショップ@守谷① 2/8(土)みそ作りワークショップ@松戸、みそ作りワークショップ@牛久 2/22(土)みそ作りワークショップ@守谷② 2/28(金)脱原発と暮らし見直し委員会	

～各種募金は、下記【注文番号】で、毎週受付しております。ご協力をお願い致します～

- ★【注文番号：500251】東海第二原発差止訴訟基金 1口500円
- ★【注文番号：500252】関東子ども健康調査支援基金 1口1000円
- ★【注文番号：500253】被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】 1口500円
- ★【注文番号：500254】JOSO脱プラ基金 1口500円
- ★【注文番号：500255】鈴木牧場・新牛舎応援基金 1口500円（期間：～2025年3月4回まで）
- ★【注文番号：500256】脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 1口200円
- ★【注文番号：500257】岩瀬牧場・養豚基金 1口500円（一次締切：～2025年4月5回まで）



条約の争点と日本政府の対応の問題点

※署名呼びかけ団体「[こどもケミネット](#)」HPサイトより抜粋 詳しくは→

1 プラスチックの生産量の制限

日本政府は、世界一律の生産制限に消極的な態度を示しています。しかし、プラスチック汚染危機の主な原因は、プラスチックの大量生産にあり（2019年年間生産量4億6000万トン※）、この危機を回避するためには、生産量の抑制－「蛇口を閉める」－ことが必要不可欠です。※UNEP報告書「Turning off the Tap（蛇口を閉める）」（2023）

国連環境計画(UNEP)
「蛇口を閉める」



2 プラスチック中の有害な化学物質の規制

プラスチックには多種多様な化学物質が大量に使用されており、それらのリユース・リサイクルを進めるにあたっては、UNEP・BRS事務局作成の技術報告書「Chemicals in Plastics」に記載されている10種の「懸念化学物質」に対する管理・規制が必須ですが、日本政府は、態度を明確にしています。

3 使い捨て製品など「問題のある・回避可能なプラスチック製品」の使用禁止

スイス等の国々は、PS（ポリスチレン）、PVC（ポリ塩化ビニル）等の5種の包装材、酸化型分解性プラスチック製品、意図的に添加されたマイクロプラスチック、使い捨て製品について問題のあるプラスチックとしてリスト化し、原則として排除（使用禁止）とすべきことを提案していますが、日本政府はこのような提案への支持を表明していません。

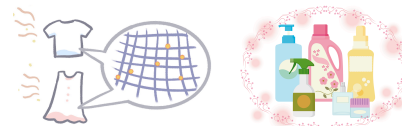
ともすれば経済性や便利さが優先されプラスチックが多く使用され、生産される現状ですが、この条約策定をよい機会として、変わっていくことができればと思います。

今週のカタログと一緒に「署名用紙」が入っています。ご賛同いただける方は署名をお願いします。（理事 森博子）

●署名用紙を記入するときは「〃」「同上」（住所の省略）と、鉛筆書きは不可です。

一筆にカウントされませんので、ご協力をお願いします。

●マイクロカプセルは「香りの害」のもとになっています↓



組合員さんからの声 ～香りの害について～

2年ほど前の秋から、私は柔軟剤や合成洗剤、香水などの匂いを嗅ぐと気分が悪くなり、咳が出て呼吸が苦しくなる化学物質過敏症を発症しました。

それ以降、私はまるで空気清浄機のセンサーのように、どこにいても化学物質に反応してしまいます。そのため、日常生活がとても辛くなりました。

元々、ケミカルな香りが苦手で、自宅では25年以上無香料の洗濯洗剤を使用し、体洗いや食器洗いも固形のシャボン玉石けんで過ごしていた私にとって、この変化は本当にやるせないものです。

夫と息子は都内へ電車通勤・通学していますが、彼らが周りから持ち帰る臭いの影響も避けることができません。また、隣近所の洗濯物や風呂場から流れてくるシャンプーにも合成香料が含まれており、それがきっかけで友人とも疎遠になり、町内会の回覧板も受け取れなくなりました。私自身も電車や公共交通機関に乗ることが辛く、交流関係が薄れてしまっています。



以前、農業を扱うショップに勤めていた際にひどい目に遭い、その経験をきっかけに常総生協に加入しました。安全な食材を食べたいと思ったからです。しかし、配達時の会話や生産者の顔が見えるイベントを楽しんでいたにもかかわらず、香りによってそれらの楽しみも遮られるようになりました。購入した卵容器への移り香がフローラル臭く感じることもあり、職員や作り手の方に合成洗剤を使っていないか問い合わせることも増えてしまいました。

最近の香り長持ち製品は、食品への臭い移りを深刻にします。得体の知れない化学物質で満ちた合成洗剤は、毎日カップ麺を食べるのと同じようなものです。常総生協に関わる皆様には、安全な無香料石けんなどをぜひご使用いただきたいと願っています。現在50歳の私が感じている耐えがたい化学物質の影響は、これから育つ子どもたちにとっても良い環境とは言えません。だからこそ、生活の日用品をより安全なものに変えて、健康と環境を守るために行動していきましょう。

今は無香料というカテゴリーでしか集まりませんが、常総生協に通じる方々がハッピーでいられることに貢献したいと考えています。

（つくば市 田代さんより）

★一緒に考えませんか★

香りの害について、話をしたり、周りに知ってもらうために集まりませんか？

香害や化学物質過敏症は、原因となる化学物質を排除しない限り、問題はなくなりません。今は規制がないので、協力してくださる・理解してくださる方を増やす他ありません。

相談会や学習会の開催、問題の発信などをすることで、理解者を増やしたいと考えてます。ぜひご連絡ください。

→組合員意見欄が[問合せフォーム](#)
へお寄せください



昨年9月実施のイベント『胡麻から見える食料危機』報告について

私たちが協力した書損じハガキ回収キャンペーンを実施しているNPO法人ハンガー・フリー・ワールド(HFW)。飢餓のない世界を目指す団体として、世界食料デー月間(2024年10月)に向けたプレイベント「胡麻から見える食料危機～ずっと胡麻が食べたい！ 私たちにできることは？～」が昨年9月18日(水)に開催されました。常総生協の生産者である、山田製油さんもゲストとして参加しました。

遠い海の向こうで育ち、私たちの食卓に届く胡麻(日本の胡麻の自給率は0.1%未満)。小さなひと粒から広い世界の食の問題について考える機会となりました。全国から沢山の反響があったイベントのレポートと共に動画のリンク(約1時間半)が公開されました。以下はその概要報告です。詳しくはこちらのサイトをご覧ください →→→→→



<https://worldfoodday-japan.net/event/report/7093/>

●世界の飢餓人口、食への権利

～国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所
日比絵里子さん～

2023年、世界の11人に1人に当たる約7億3300万人が慢性的な飢餓に直面。アフリカでの状況はさらに悪く、5人に1人。食料は、空気と水に次いで3番目に大切な人の基本的なニーズであり、全ての人に適切な食料への権利。今こそ、農業・食料システムを変革することが急務。私たち一人一人にできることがあるので一緒に取り組んでいきましょう。



●世界の食料問題の概観

～HFWの学生インターン濱野さん、馬場さん～

飢餓人口が大幅に上昇している背景の一つには脆弱な食料システムがある。かつて人類が食べてきた植物は5000から7000種類以上もあったが、今は、小麦、米、とうもろこしの3種のみが世界のカロリー摂取の半分以上を占め、大きなリスクに。先進国の人々の飽食も原因の一つで、サハラ以南アフリカの全食料生産とほぼ同量の食料を廃棄。かたや日本の食料自給率は38%。チョコレートやコーヒーなどは日本で栽培できず、少数の生産大国からの輸入で賄っており、代わりに自動車などの加工品を輸出する依存関係が課題。

●エチオピア(世界第2位の胡麻輸出国)の胡麻生産

～アフリカ日本協議会理事の白鳥清志さん～

エチオピア人の日常生活の中にはあまり登場せず、高い胡麻を輸出して得たお金で、より安いパームオイルやコーンオイルを輸入。エチオピアの胡麻は殆どが降雨を利用した天水栽培で、雨が足りなくなると収穫は半減、非常に脆弱な状況。また、2020年の新型コロナパンデミックに加え、同年の国内紛争があり、現在は停戦したがインフラは破壊されたまま。その影響で日本への胡麻輸出も15千→4千トンへ落ち込んだ。農家は、市場で少量の農産物を売って現金に変え、そのお金で必要なものを同じ市場で買って帰るといふ暮らしのため、胡麻生産が滞ると生活へ影響が及ぶ。



●日本の胡麻取引第2位のブルキナファソについて

～HFWのプログラムオフィサーの槌谷保子さん～

2022年以来軍事クーデター政権が続き、世界で最も忘れられた強制移住危機ランキング2年連続で1位に選ばれている国。昨年は190万人が国内避難民となり、畑放棄をする農民も多く、生産が低下。ブルキナファソはHFWの活動地で、栄養改善のため栄養価の高い地場産品(胡麻、大豆、ピーナッツ、ささぎ豆)を住民組織で栽培する取組みや調理コンクールも毎年開催。隣国パナンでは輸出制限を始めた(食糧価格高騰に対応するため)。日本もお金を出しても売ってもらえない日が来るのではと心配。



●胡麻の現状と未来、フードロスについて

～株式会社山田製油代表取締役の山田康一さん～

ここ数年で胡麻価格は3倍ほどに高騰。以前は日本が最終寄港地だったが、今は中国・シンガポール・韓国の支線として日本へ来て、当社が手配できないことも時々ある。日本の輸出が倦厭される理由の一つは、胡麻は残留農薬の基準が厳しく、超えるとシッパバック(積戻し)のリスクが。高く売れないのに要求が高いので日本の魅力度が低下している。当社は一番搾りに特化しており1kgの胡麻から500gの胡麻油が精製。絞った残りの胡麻をフードロスの観点から利用しようと、1個の胡麻という原料から2種類の製品にしようと挑戦している。(ふりかけ・ごま菓子・ごまレッドスパイス)



【予告】HFW主催 2025年4月5日(土) にサワドゴ・フルメンス・フランソワさん来日講演「アフリカの紛争と農業～世界と日本の食の未来は？～」を予定しています(詳細は後日掲載します)。(職員 稲垣芳)

「ふるさと便」サービス終了のお知らせ（商品部）

日頃より生協商品をご利用いただきありがとうございます。

突然のお知らせで大変恐縮ではありますが、『ふるさと便』につきましては、**2月4回企画を最後としてサービスを終了**させていただきます。

「遠方に住んでいる家族や友人にも常総生協の商品を送りたい」というご要望もあり、2018年4月よりサービスを開始し、コロナ禍には外出制限等の影響もあり利用者数も増加しました。その後も定期的にご利用いただいている組合員の方もおられますが、直近では月に数件の利用という状況が続いており、『ふるさと便』の需要が減少していることを鑑みてサービスを終了させて頂く次第です。

定期的にご利用いただいている組合員の皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。長らくご利用いただきありがとうございました。

提供終了サービス	『ふるさと便』
終了のタイミング	2025年2月4回企画まで。 ※3月1回以降お申し込みを頂いても対応できません のでご了承ください。

尚、本件についてご不明な点がございましたら、お手数ですが生協までお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。



野菜などの利用についてのお願い（昨今の利用状況について）

いつも生協をご利用いただきありがとうございます。報道にもあります通り、この冬にかけて葉物野菜を中心に市場価格が高騰しています。

異常気象が「普通」になってしまった昨今、こうした事態は今後もいろいろな品目で続くものと思われます。

■常総生協の状況

市販と比較して安い場合、ものによっては通常と比較して3倍程度の注文が集中します。例えばキャベツは4倍程度で推移しています。

生産者とは、基本的には通年（前年）の実績を元に作付けをお願いしています都合、こうした急激な受注増加には対応できません。

今回、生産者も可能な限り欠品しない様に出荷しますが、前倒し出荷等で「早じまい」もあり得ますことをご了承ください。

■生協の価格の付け方

農産品の価格は生産者との話し合いで決定します。基本的にはシーズン中の変動はありません。変動しない代わりに、市場が安くなった場合でも企画し、仕入れます。生産者との「約束」だからです。

■ぜひ継続的にご利用ください

相対的に安いものを買うのは「市場の原理」には即していると言えますが、こうした事態が続く限り生産者は安心して生産できません。

野菜に限らず、市場が安い時（＝生協価格が相対的に高い場合）でも継続的に生協の商品をご利用ください。

生産者・製造者を継続的に支え、良いも悪いも率直に出し合い、「未来に続く安心の食」を生産・消費できる関係を築いてまいりましょう。



■「野菜セット」をおすすめします

常総生協の野菜セットは、個人生産者、若しくは小規模グループの生産者によりセット組みされます。また、野菜セット生産者は少量・多品目を作付けしています。畑はあたかも「パッチワーク」の様相です。異常気象が当たり前となった中でも、「この野菜はダメだけど、こっちは野菜は大丈夫」と、生産者もフレキシブルに対応できます（ただ、2月末にシーズンオフになるセットもあります。苗などの準備を経て、5月2回から再開しますのでその際はぜひお申し込みください）。

今後、「顔の見える関係」をより一層強め、同時に「畑の都合」に合わせた消費スタイルを少しずつ進めることで、「安心の食」を手に入れることがますます重要になってくると思われます。

時には食べ慣れない野菜も入るかもしれませんが、ぜひ楽しみながら利用いただけると幸いです。利用方法も組合員間で交流できればと思います。

（専務理事 柿崎洋）